

第4回 鶴岡市内の県立高校再編整備に係る関係者懇談会 記録（概要）

1 日 時 平成30年11月30日（金）10:30～11:40

2 会 場 鶴岡市第三学区コミュニティセンター 大ホール

3 参加者 委 員 阿部敬子、岩田瑛子、尾形圭一郎、小川雅子、菅原弘昭
高橋たず子、藤野淳（五十音順、敬称略）
事務局 柿崎教育次長
須貝高校改革推進室長
奥山高校改革主査、丹野高校改革主査、安達高校改革主査

4 内 容

- (1) 県教育委員会あいさつ
- (2) 説明・報告
 - ・ 第3回懇談会における協議の概要
- (3) 協議
 - ① 懇談会の「意見のまとめ案」について
 - ② 「意見のまとめ案」の今後の取り扱いについて
- (4) 連絡

5 発言要旨

- (2) 説明・報告
質問等なし。
- (3) 協議
 - ① 懇談会の「意見のまとめ案」について
(委員)

鶴岡南高校と鶴岡北高校の統合について、統合することによって、適切な学校規模を確保するという事は良いことだと思う。人数が増えることイコール切磋琢磨してレベルが上がるのか、それとも学力に開きが出てレベルが下がるのかはよくわからないが、良い方向に向かえば良いのではないかと思う。目指すところは県内トップの進学校だと思うが、中には、大学を目指さないが鶴岡北高校で合唱をやりたいと考えて入学し、将来は就職したいと考えている生徒もいると思うので、就職にも強い学校になって欲しい。工業高校、農業高校、水産高校といった専門性のある高校は資格取得等に有利だと言われているが、普通高校でも問題ないと思う。きちんとした就職情報を教えていただければ、いくらでも対応できると思う。会社としては、普通高校の生徒でも全然かまわない。会社に入ってから、育てることも考えられる。

加茂水産高校と庄内農業高校の鶴岡中央高校への統合については、専門性のある学校なので、単独での存続が難しいのであれば、統合もやむを得ないのではないかと思う。ただ、校舎が離れていることが気がかりで、机の上だけの勉強ではできない生き物に関わる学校なので、基本毎日手を掛けたいと思う。天候に左右されることも考えられるので、カリキュラムなどを考えなければならないと思う。移動の経費などがかかると思うが、最終的に保護者に負担にならないようにできれば良いのではないか。

庄内中高一貫校（仮称）の設置については、賛同する意見の中に、グローバル化に対応、チャレンジする力、能力の伸長などがあり、進路選択の幅も広がることも事実であるが、こういった対応力を付けるのは、中高一貫教育校でない駄目なのかという気持ちも若干ある。設置の意義の中に、「高校入試の影響を受けることなく、安定した生活を通して…」とあり、東桜学館中学校のパンフレットの中に「高校入試が

ないことによる時間的な余裕を活用し・・・」とあるが、個人的にあまり良い表現ではないと思う。実際に、ほぼすべての中学生が高校入試を受検するわけだが、中高一貫教育校だと高校入試がないという謳い文句が無い方が良いと思う。最終的に統合した後、どこの大学に何人入ったか、点数を何点取ったかについて、教育委員会や学校関係者が喜ぶのではなく、生徒や保護者、そして地域のためにプラスとなるようにシステム作りをしていただきたい。少子化のために、再編の議論をしているわけだが、地元が活気あふれるように、将来的には地元に戻って来られるようなシステム作りを、教育委員会で考えることではないかもしれないが、企業も含めて、考えていくと良いと思う。

(委員)

これまで議論されたことが丁寧にまとめられ、意見が網羅されていると思う。意見のまとめ案については、この形で良いと思う。

鶴岡南高校と鶴岡北高校の両校の伝統ある高校の統合については、限られた紙面の中では伝えきれない、背景にある様々な思いなども汲み取られるようになれば理解が得られると思う。

加茂水産高校と庄内農業高校の鶴岡中央高校への統合については、大きく定員割れをする状況になれば、統合もやむを得ないということになる。そういったことにならないような生徒募集や魅力ある学校づくりなどについても伺える内容になっている。

庄内中高一貫校（仮称）の設置について、懸念や課題があることが伺える内容となっているので、このような形で良いと思う。

(委員)

意見のまとめ案について、これまでの議論を丁寧にまとめていると思う。

鶴岡南高校と鶴岡北高校の統合について、これまで多くの方々への両校に対する思いや考えを聞き、改めて非常に難しい問題だと感じた。しかし、生徒減少の中で、子どもに充実した教育活動を行うためには、やむを得ないのではないかとと思う。ただ、両校の良さを継承しながら、どのような学校をつくっていくのかという理念づくりがポイントだと思う。地域の皆さんが心配する点についての克服に努めながら、期待と可能性に込めていくことが大切だと思う。

加茂水産高校と庄内農業高校の鶴岡中央高校への統合については、水産、農業とも本県の産業振興を担う若者の育成という視点では、非常に大切だと思う。その学びを保証していくことが必要だと強く感じる。それを実現するために、単独校では難しい状況になることが予想されることから、やむを得ないのではないかとと思う。なお、水産、農業、普通、総合の多様な学科の横断的な学びも期待でき、将来、幅のある進路選択につなげることができるなど、特色ある学校づくりを進めることを期待したい。

庄内中高一貫校（仮称）の設置について、期待する声が多くあったと思うが、周辺小中学校への影響に対する懸念やソフト、ハード面に対する配慮や充実を求める意見も出されている。そういった声もしっかり受け止めていく必要があると思う。来月、本市においても、このことに係る懇談会が予定されている。市内の小中学校の先生方、保護者の皆さんの意見を再度聞く会となる。他の地区でも、広く意見を聞く会が行われている。県がこれまで示したものをベースにしながらも、様々な会合で出てきた意見等を検証し、議論を重ねて結論を出していくことが大切ではないかとと思う。丁寧な合意形成による結論にさせていただくことをお願いしたい。

(委員)

鶴岡南高校と鶴岡北高校の統合について、意見のまとめ案の通りだと感じている。子どもに広く深い学びを保証するためには必要であると思う。両校に引き継がれてき

た伝統をさらに高めるためにはどうしていけばいいのかをさらに検討をして、納得感をもった価値ある統合にしていかなければならないと思う。

加茂水産高校と庄内農業高校の鶴岡中央高校への統合についても、意見のまとめ案の通りだと感じている。この統合を機に、子ども達にどんな専門性・資格を得る学びができる高校を保持していくのか、3つの高校の強みを生かせるようなカリキュラムについて検討をしていくと良いと思う。この高校で学び、専門的な資格を得られるのであれば、それを受けて、どんな仕事に就いてその学びを生かしていくのかを子どもが自ら選べるような魅力ある高校づくりができればありがたいと思う。

庄内中高一貫校（仮称）の設置について、意見のまとめ案のように、中高一貫教育校を設置することについては、賛同する声が大変多いということから期待感が大きくあることがわかる。ただ、そのことが鶴岡南高校と鶴岡北高校の統合、他の公立中学校の影響など、様々な絡みがあり、それらに対して、適切な対応が求められると考える。しかし、これからの時代を生き抜いていく子ども達には、この中高一貫教育校の選択肢が増えることは望ましいと思う。現段階で出されている課題や見通しの立たない部分に関しては、地域住民と共有しながら、丁寧に検討して進めていって欲しいと思う。

（委員）

鶴岡南高校と鶴岡北高校の統合及び加茂水産高校と庄内農業高校の鶴岡中央高校への統合については、生徒数の減少によりやむを得ないと思う。各高校の特色を検証して、子ども達に不利益のない学びの場を提供するといった点からも、この意見のまとめ案で良いと思う。

庄内中高一貫校（仮称）の設置については、内陸に比べて中学校数が少ないため、学級減や部活動・委員会への影響などの中学校に対する影響の大きさが不安である。内陸のように志願者がいろいろな地域に広く分散していれば中学校への影響も少なく済むが、鶴岡南高校と鶴岡北高校はどちらも定員割れをしておらず、さらに倍率が上がることになり、専門学校への進学を目指す子どもや就職を希望する子どもが志願できなくなるといった可能性もあるのではないかと思う。2校が統合されたことによる志願倍率、高校卒業後の進路などは、蓋を開けてみないと分からない。可能であれば、鶴岡南高校と鶴岡北高校が統合した後で、中高一貫教育校の設置について検討できるといいと思う。東桜学館の高校に内進生が入っていない時点では、統合した上での中高一貫教育校の学力や進路、就職先などがどの程度の幅になり、どのような特色の高校となるのか想定できない。その状況で、統合して庄内唯一の公立の進学校となるのと同時に、中高一貫教育校となるのには不安がある。中高一貫教育校の設置案に賛同する意見については同感である。中高一貫教育校の設置案はとても魅力的な案だと思うが、同時に不安も感じるので、周辺への影響に対する懸念と、統合と同時に中高一貫教育校を設置するかどうかについて、意見のまとめにそのまま入れておいてほしいと思う。

（委員）

意見のまとめ案のそれぞれの項目について、意見等の追加はない。資料や意見等を偏り無くまとめてもらったと思う。この懇談会としては、第二次計画案を進めるにしても、様々な課題や思いがあることを伝えられ、大変良かったと思う。このまとめ案の「はじめに」のところに「おおまかな考え方と付随する要望事項をまとめた」とあるが、関係者懇談会として、大まかな考え方なのかどうかを見たときに、12ページ以降の部分になると思うが、文言と内容の整合性について確認していただき、より良い表現にしていきたいと思います。意見聴取の内容についても、もう少し見やすい書き方を工夫してはどうかと思う。

(委員)

意見のまとめ案を受けて、さらにこの会の方向性を出すのか。

(座長)

本懇談会の趣旨は、県教育委員会からこの高校再編案を示したときに賛否があり、この懇談会を設けて、理解を深め、地元の皆様のご意見を広く適切にいただくということであった。従って、方向性を一本化する議決をするのではなく、皆様の切実な具体的なお意見を広く伺って、県教育委員会としての判断をする参考としていただくことになる。様々な方々の意見を伺う中で、大方の方向性が見えてきたが、さらに、現実化するには、様々な課題や懸念もあることがわかった。それらの意見等をまとめたという意味での「意見のまとめ」である。

② 「意見のまとめ案」の今後の取り扱いについて

(事務局)

本日いただいた意見を踏まえ、座長の指導のもと、必要な修正を加えて、12月中旬を目処に「意見のまとめ」を完成させたいと考えている。修正内容について、最終的な判断は、座長に一任していただきたいが、いかがか。

(全委員)

異議なし。

(座長) 御礼のご挨拶

急速に進む少子化や、情報化によって社会環境が大きく変わってまいりました。これが今後さらにどのように進むかについては、予測不可能であります。私たちの日常生活も、これからの公教育の在り方も大きく影響を受けていくことが明らかです。この田川地区の県立高校の再編整備に関わって、いろいろなご意見を直接伺い、また、実際にはお目にかかることのできなかった方々のご意見を伺う中で、これまでの田川地区における教育の伝統がどれほど素晴らしいものであったかを、強く感じたところです。また、その伝統がどのように変わっていくのかなどの様々な不安や懸念についても同じように危惧する思いで、ここで議論をさせていただきました。4回の会合の中で、私どもの意見の方向性を整理し、そしてその具体的な運用に当たり子ども達にとって大切な教育の要素というものを具体的に挙げていただいたことをありがたく思います。振り返ってみますと、これまでも時代の変化によって教育環境は大きく変わってきました。特に明治5年に学制が公布されて、学校教育が始まり、非常に大きく変わったわけですが、それでもこの地の藩校、致道館の気風は、新しい学校制度となっても生きており、この土地で様々な人材を育ててきたと感じています。鶴岡南高校、鶴岡北高校の素晴らしい伝統が、高校再編の中で、さらにお互いに良い影響を受けながら新たに創造され、それがこの歴史の中に、この風土の中にさらに生かされるような教育体制が作られるとありがたいと思います。この意見のまとめを、私どもは県教育委員会に提出しますが、県教育委員会におかれましては、今後、田川地区の県立高校の再編整備を進めるにあたり、次世代を担う子ども達にとって望ましい教育環境を提供するため、本懇談会での議論を踏まえて検討されることを期待しております。皆様、本当にありがとうございました。